

## 事業評価シート

担当課・室長：環境安全課長

事業名	内分泌かく乱化学物質の有害性評価等
上位施策名	化学物質対策
1 事業の概要	<p>内分泌かく乱化学物質問題は、環境中の化学物質が生物の体内に取り込まれて内分泌作用をかく乱し、人の健康影響や生態影響を生じさせる可能性が指摘されており、国民の安全・安心に関わる重要な問題である。</p> <p>本事業は、環境実態を早期に把握し、ミレニアムプロジェクトによる有害性評価（3年間で40物質以上）を進展させ、国際シンポジウムの開催、国際共同研究の推進等国際協力・協調を行うものであり、もって内分泌かく乱化学物質問題の解決に寄与する。</p> <p>なお、内分泌かく乱化学物質問題に関しては、関係省庁連絡会議（環境省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）を設置するとともに、ミレニアムプロジェクトに関しては、環境省、農林水産省、経済産業省が連携して取り組んでいる。</p>
2 進捗状況	<p>平成10年5月に環境ホルモン戦略計画SPEED'98を策定し、12年11月に新しい知見等を追加し改訂。</p> <p>平成12年度は、12物質の有害性評価に着手するとともに、その他2物質について各種試験等による評価を終了し、SPEED'98の改訂に反映。</p> <p>スクリーニング・試験法の開発を行うべく、OECDを中心に先進各国で協力分担による取組がスタートしており、環境省は特に生態系に及ぼす影響について有害性評価を行うスクリーニング・試験法の開発に参加。平成12年度事業では、魚類及び鳥類においてスクリーニング法を開発するとともに、それらを用いて優先物質の一部について試験を実施。</p> <p>平成10年度から毎年、全国での環境実態調査を実施。</p> <p>平成10年度から毎年国際シンポジウムを開催。 （平成10年度：京都、11年度：神戸、12年度：横浜）</p> <p>平成11年12月から日英共同研究を、13年4月から日韓共同研究を開始したところ。</p>
3 評価	<p>有害性評価については、3カ年で40物質以上について実施するとの目標達成に向け着実な進捗が図られている。このうち、平成13年8月には、ノニルフェノールが魚類に強い内分泌かく乱作用を有することを強く推察させる世界初の試験結果が得られた。</p> <p>スクリーニング・試験法の開発については、平成14年度までに生態系に及ぼす影響について有害性評価を行う高感度なスクリーニング試験法の開発を行うとの目標に対し、相応の成果を上げることができたと認識。</p> <p>これまで3回開催された国際シンポジウムは国内外から高い評価を得るとともに、英国との国際共同研究では、試験法における飼育条件の標準化が行われるなど着実に成果をあげている。</p> <p>今後の課題として、ヒトのリスク評価を行うために、食事、室内空気等からの曝露量調査を行うとともに、環境リスクがあると評価された物質について排出規制等につなげるための排出・汚染源周辺での精密調査の実施が必要。</p>
4 予算事項名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内分泌かく乱化学物質による健康影響等調査</li> <li>・ 内分泌かく乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費</li> <li>・ 内分泌かく乱化学物質実態解明推進事業</li> </ul>
5 対応副施策等	